

Special Interview

～ミニ・ビブリオバトル～

ミニ・ビブリオバトルについて

電気電子工学科5年 銚崎 暁文

ミニ・ビブリオバトルのすすめ

私は今年で二回目となるミニ・ビブリオバトルに参加しました。前回も楽しい経験でしたが、今回は、紹介した本がチャンプ本に選ばれ、さらに充実した時間を過ごすことができました。このイベントは、参加者それぞれが本の魅力を語り、リスナーと意見を交換する場であり、読書の新たな楽しみ方を広げてくれる特別な機会です。

さて、今回紹介した本についてですが、昨年度と趣向を変えて「考古学」の専門書を紹介しました。通常手に取らないような一冊ではありますが、ふとした時に適当なページを開いて読んで見ると、知的好奇心が満たされること間違いなしです。幅広い分野を扱っており、幼少のころに慣れ親しんだ図鑑のように楽しめることでしょう。ギリギリまで悩みましたが、この一冊を紹介できてよかったと思います。

そして、一番の楽しみは他者の語る本の魅力について触れることができることです。新たな分野、新たな本の楽しみ方を知れたり、何より読書友達を見つけることができるかもしれません。私も今回のミニ・ビブリオバトルで読んでみたい分野が一つできました。

「自分の好きなもの」について語る。それを多くの人に聴いてもらえるというのは、とても貴重な経験です、少しでも興味があれば、来年度以降のミニ・ビブリオバトルに是非参加してみてください。そして、少しでも本が好きな人が増えれば幸いです。



学生課情報サービス係

第2回ミニ・ビブリオバトルが
開催されました

令和5年度に初めて開催された本校図書館ミニ・ビブリオバトルの第2回目が、令和6年11月20日(水)に行われました。ミニ・ビブリオバトルは、自分のお気に入りの本や是非読んでほしいと思う本を3分間で紹介し、更に観覧者との質疑応答を通じて、その本が持つ魅力を深掘りして伝え、読書の輪を広げていくことを目的とした取組です。

昨年度は6名の方に紹介していただけたのですが、今年はどうかな……。との心配は杞憂に終わり、何と昨年度を上回る7名(都合により急遽参加できなくなった方も含めると8名)の方から本を紹介したいとの申し出があり、嬉しい誤算となりました。ひとりの紹介者に対する質問は2分間を予定していたところ、観覧者から次々と質問が出され、予定時間を度々超過する等充実したものとなりました。

中には本の紹介にとどまらず、図書館書庫に対する熱い思いを力説される学生もいて、異なる切り口での紹介に意表を突かれる、大変中身の濃いビブリオバトルとなり、大いに盛り上がりしました。

新型コロナウイルスが流行した令和2年度に本館の入館者数や本の貸出し者数は大きく減少し、本離れ、図書館離れが危惧されました。令和3年度以降は上向き傾向にあるものの、流行前の水準には戻っていません。そのため、ミニ・ビブリオバトルの開催が図書館の利用拡大に繋がれば良いと考えています。

紙媒体の教科書からタブレット教科書への移行が試みられた国においても、IT先進国のスウェーデンや15歳学力世界トップのシンガポールが紙媒体へ戻す意向を示すなど、紙媒体の図書にはまだまだ有益なところ、存在意義があるのではないかと思います。皆さんも是非図書館へ来て、多くの本に親しんでください。